

型携
P 2 P
情報機器連

ソフト研究成果の事業化

名大がVB立ち上げ

【名古屋】名古屋大学の河口信夫助教からは、ユビキタス社会に対応する基本ソフトウェアの研究を事業化するため、ベンチャー企業「ユビグラフ」を設立した。異なる機器間で情報をや

り取りするピアツーピア（P2P）技術を用いてマルチメディア会議システムの開発などに乗り出す。08年以降の早い時期に株式上場を狙う。ユビグラフは有限会社で資本金300万円。河

口助教とメタプロトコル（名古屋市中区、052・968・2521）の安藤真介社長が折半出資した。河口助教は取締役役に就任した。本社はメタプロトコル内に置く。06年6月期に

売上高1億円を目指し、株式会社化も果たしたいと考えた。河口助教らが開発したJavaによるP2P型情報機器連携システム「cogma」をベースとする事業を展開。異なる

る情報機器をネットワークし、ソフトを相互交換できるといった特徴を生かして、マルチメディア会議システムを受託開発する。将来は各種情報機器への組み込みを目指す。これまで富士通プラットフォームソフトテクノロジ（名古屋市中区）と連携し、cogmaの高速化や省メモリ化に取り組んでおり、今後も産学官連携を積極化する。